



SPACの挑戦

演劇の力で、人を、静岡を、元気に!

新型コロナウイルスの感染が拡大するなかで、演劇や舞台芸術は不要不急のものだという意見が多く聞かれました。一方でわたしたちは、これまで劇場でお客様と接する中で、「演劇や劇場がどうしても必要だ」という方々が、確かにいらっしゃることを知っています。そのような方々にとって演劇や舞台芸術は、自分らしく幸せに生きる上で必要な、いわば「こころの食べ物」なのです。

“Stay Home”の期間には、いろいろな物事がインターネットに置き換えられました。それは本来、遠く離れた世界中の人々とつながることができる技術です。それなのに、ひとりひとりの世界や価値観は、どんどん狭く小さくなっていると感じます。ましてインターネットを使うことが苦手な人は、現実世界での接触自粛によって、いよいよ世界から切り離されてしまったと感じているかもしれません。

こんなときこそ、自分以外の価値観を持った人間、つまり「他者」と言える人たちとつながっていくことが大切だと思うのです。人は、「他者」とのかかわりによって世界の広さや多様性を感じ、また、世界とのつながりを取り戻すことができるからです。

演劇は、「他者」と出会う芸術です。いま、演劇を必要とする人はいっそう増えていると実感しています。けれども、しばらくはお客様に劇場に集まっていただくことが難しい状況が続くでしょう。そこでわたしたちは、ちょうどスーパーマーケットのように、劇場を飛び出してお客様に直接、演劇という「こころの食べ物」を届けるべきだと考えました。

SPACは、そのための様々な新しい挑戦をはじめています。わたしたちが懸命につくり届ける、「こころの食べ物」を食べていただければ、「いま、少し世界とつながった」という実感を、きっと感じていただける——そう願ってがんばっています。



©新良太

SPAC芸術総監督

宮城 聡

SPACは、静岡の地域課題に演劇で応えていきます!

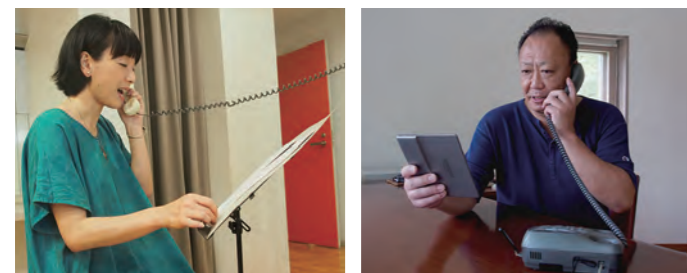
地域を活性化する演劇
地域にとどける一人一人に! 教育現場に! 福祉現場に!

SPACはこれまで、舞台作品の創造・上演のみならず、地域に向いたアウトリーチ活動にも力を注いできました。専属の俳優・スタッフがいる「公立劇団」の強みを生かし、コロナ禍においても地域課題やニーズに合わせた柔軟なプログラムを提案しています。教育・福祉の現場、そして地域活性においても演劇は有効に活用できます。演劇を通じて育まれる感受性、表現力、想像力、また心の交流は、人を育て、地域をより魅力ある場所にしていくことにつながります。



2020年8月「音芝居」(静岡市立船越小学校にて)

一対一の劇的なひとときで 心に寄り添う



でんわde名作劇場 2020年4月～

自宅に居ながら電話でSPAC俳優の生朗読をお楽しみいただける企画。4-5月に開催された「くものうえ!せかい演劇祭」で始まり、大きな反響を得て6月から再開。孤独を感じやすい日々の生活に、電話というアナログな手法で寄り添います。

- 「非常に感動的でした」(50代・女性)
- 「今後も、この企画を続けてほしい」(60代・男性)

子どもたちに「多様な価値観」を



教科書朗読プロジェクト 2020年6月～ YouTubeで配信中

俳優37名が、県内で使用されている小・中・高の教科書を朗読し、自ら制作した動画をインターネットで無料配信。140以上の作品を順次公開しています。県教育委員会からも教材として推薦いただき、国語の授業や部活動でも活用されています。

ウィズコロナ型の出前演劇

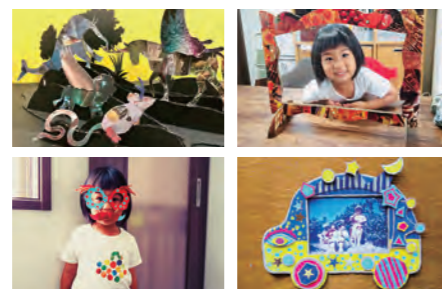


音芝居 静岡県子ども文化と出会う機会創出事業

2020年6月～ 県内小学校などで実施

言葉を発せず打楽器を使った“会話”、フェイスシールド付き衣裳など、感染防止対策を演出に取り込んだ演劇作品。生活の変化などによるストレスから子どもたちの心を解放し、「表現」に目を向けるきっかけを作ります。

舞台スタッフによる工作提案

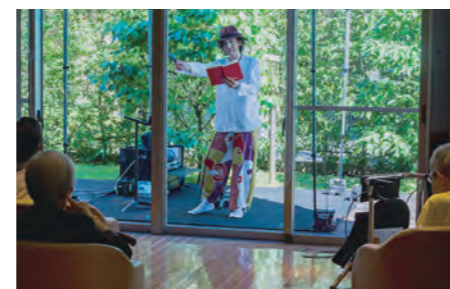


SPACアートおとどけ工房

2020年6月～8月末

SPAC作品の美術や衣裳を手がける舞台作家たちが、子どもたちにアート作品をとどけます。休校によるカリキュラムの変更で芸術に触れる時間が減ることも懸念される中、創造の芽を育むお手伝いをします。

福祉施設で“非接触”の交流



SPAC出張ラヂヲ局

2020年6月～8月31日

高齢者福祉施設などに俳優が出向き、感染防止のため施設の外からミニFM放送装置を使って朗読や演奏をおとどけます。施設利用者や職員の方々の心の交流を目的に、県内10ヵ所以上で実施予定。

SPACは、静岡と世界の文化交流を演劇で発展させています!

文化観光資源としての演劇
静岡と、世界をつなぐ静岡から世界へ! 世界が静岡へ!

SPACは、地方で創造し、地方から世界へ発信する劇場・劇団として、国内外で圧倒的な存在感を示しています。芸術総監督のもと、劇団と劇場が一体となり機能することで、国内外の優れたアーティストの招聘や、国内・国際共同制作による質の高い演劇作品の創造を実現しています。いまやSPACのファンは全国に広がり、毎年全国各地から多数の演劇ファンが静岡を訪れます。SPACの活動やその作品は、静岡の文化観光資源となっています。

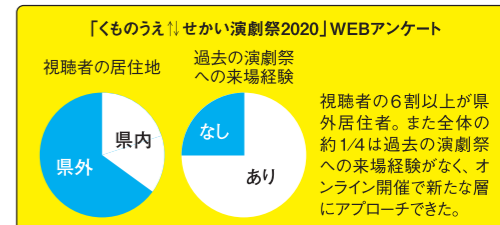


2017年「アンティコネ」仏アヴィニョン演劇祭公演

くものうえ!せかい演劇祭2020

2020年4月25日～5月6日

新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年ゴールデンウィークに行われる「ふじのくにせかい演劇祭2020」が中止となった代わりに、SPACはどよりも早くオンラインの国際演劇祭を開催しました。49にのぼる様々なコンテンツを連日発信し、動画の累計視聴回数は56,000回を超えました。県外・海外からのアクセスも多く、緊急事態宣言下での開催にお客様から「勇気づけられた」「次は静岡に行こうと強く思った」という声が多く寄せられました。



国際発信・国際招聘の取組み

SPACは、毎年海外の主要な演劇フェスティバルや劇場から招かれ高い評価を受けています。2017年アヴィニョン演劇祭では2000席の客席が連日完売、多くの現地メディアに取り上げられるなど、注目は増えています。こうした活動は海外での「SHIZUOKA」のプレゼンスを高め、海外からSPACを観に静岡を訪れるといったダイレクトな交流も生まれています。同時にSPACでは、海外からの招聘活動も積極的に行っています。例年ゴールデンウィークに「ふじのくにせかい演劇祭」を開催。静岡市が行う「ストレンジシード静岡」と連動する日本でも屈指の国際演劇祭には、全国各地また海外からも観客が集まり、大きな経済波及効果を生んでいます。



SPAC海外公演実績

公演数: 世界16カ国で300回
 入場者数: のべ15万人以上
 1997年～2020年7月現在

「ふじのくにせかい演劇祭2019」実績

来場者総数: 約2万3千人
 経済波及効果: 1億6千万円以上
 ふじのくにせかい演劇祭2019(10日間)、ふじのくに野外芸術フェスタ静岡2019(4日間)、ストレンジシード静岡2019(4日間) 合計